

講演 私の体験と支援に求めること

コーディネーター：和氣みち子氏 認定特定非営利活動法人 全国被害者支援ネットワーク理事／(公社)被害者支援センターとちぎ 事務局長
 講演者：小佐々冽子氏 (公社)被害者支援センターとちぎ 自助グループ、相談補助員

(講演要旨)

事件の内容

平成13年10月31日、市の職員だった夫(57歳)は、廃棄物処理行政を担当していたが、市に対する業者の不当な要求をはねつけていたために、逆恨みにより帰宅途中に拉致・殺害された。

1年3ヶ月後、加害者の暴力団員等4人が逮捕され、実行犯3人は殺害を認めたが、主犯の廃棄物処理業者は逮捕直前に自殺。理不尽な行政対象暴力の犠牲になった夫の遺体は12年経過した今も見つかっていない。

事件直後と二次被害

市職員は誰もが口を閉ざし、捜査にも協力せず、世間の好奇の目と、自分も狙われるとの不安で4年間も、家の中に閉じこもる生活が続いた。子ども達もPTSD、娘は現在もカウンセリングを受け、息子は退職を余儀なくされた。それでも休みになると家族で山や川を必死に捜し続けた。

マスコミの取材攻勢、心ない世間の人々の言葉で二次被害は私達家族の傷を深くした。

孤独、孤立感を厭と言う程味わったが、反対に優しい友人の言葉はありがたかった。

被害者からのお願い

12年経過し良く生きてこられたと今思う。「被害者支援センターとちぎ」との関わりは大きかった。自助グループは、自分を思いきり吐き出すことが出来た場所、生きる力を与えてくれた場所である。同じ様なつらい思いをする被害者を出さないために、事件・事故を出さない活動を！今日から続く明日が、誰にでもある訳ではないことを、社会に伝えていただきたい。

より良い支援のために

- 思いやる心 ○人の気持ちを察する心
- 創造力に富んだ思慮深い心を大切に支援に携わっていただきたい。

今年も冷たい雪の下で冬を越す夫、一日も早く家族の元に連れ帰りたい、それを一番願っているのは夫だろうと思うから・・・。

最後に和氣コーディネーターが、「彼女の行動には失われた命を無駄にしたいくないと言う強い思いがある。一步一步前を向いて進んでいただくために、今後も側面から支援を続ける決意と、ご遺体が一日も早く家族のもとに戻れる様、皆さんと共に祈りしましょう」と結んだ。

